

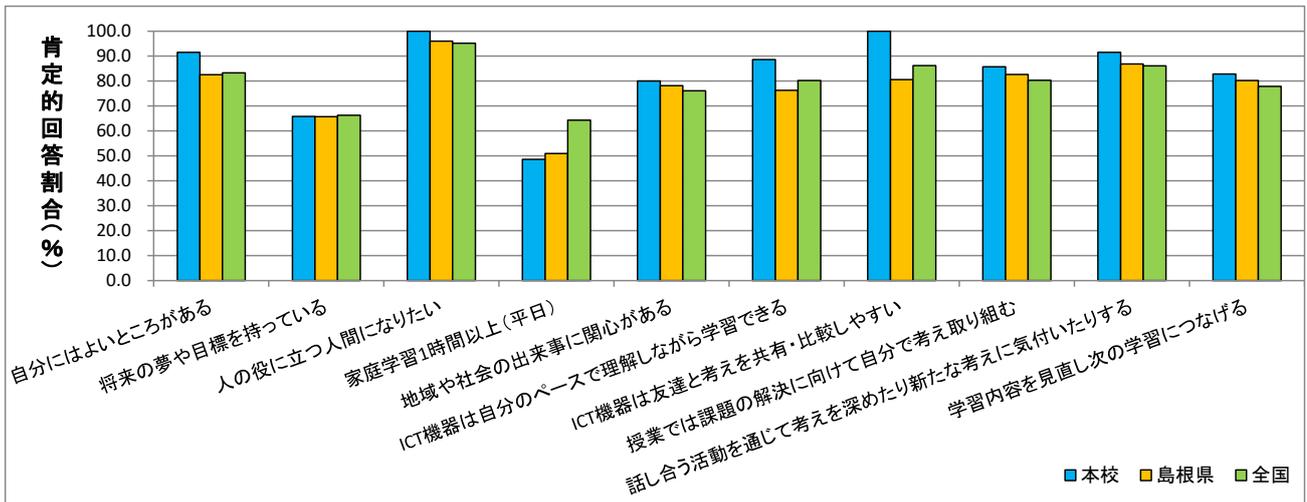
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対策(・)
国語	○読解力、漢字の読み書き、文法の知識等の正答率もよく、全体的に国語の力は高い。 ●語彙力が乏しく、難解な語句の理解に課題がみられる。 ●抽象的な概念を把握することが困難であり、その力の乏しさが、文章の全体像をつかんだり、段落同士を結びつけて考えたりすることの難しさにつながっている。	・語彙力の乏しさ、抽象的な概念の理解不足に関しては、読書習慣に起因するところが多い。そのため、学校図書館の利用や朝読書等、読書活動に力を入れる。 ・文章の内容を大まかにとらえたり、段落の内容を要約したりする活動を授業に取り入れる。
数学	○全体的に正答率は高く、県平均、全国平均を超えていた。 ○無回答率が低く、正答はできていなくても取り組む学園生が多い。 ●記述式の問題(証明や説明)に対する正答率が低く、思考・判断・表現の問題に苦手意識が見られた。	・書く力、説明する力が向上するように、授業の中でグループ活動等を活用し、説明する場面を意図的に作っていく。その際、学園生の習熟度に配慮した課題にする等、工夫をする。 ・難しい問題をすぐに諦めてしまわないように、ヒント等を出しながら取り組みせ、自分で解けた経験を増やしていく。

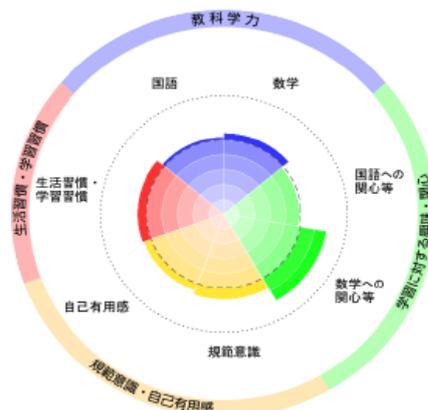
(2)質問紙調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対策(・)
質問紙	○県や全国に比べ、「自分には良いところがある」や「人の役に立つ人間になりたい」という肯定的な回答の割合が高く、日々の生活の中で自己肯定感や自己有用感を実感する機会が多い。 ○ICTを活用する機会が多く、機器を活用して学習に意欲的に取り組んでいる。 ●家庭学習時間が短い。 ●家庭学習に、ICTを活用している割合が低い。	・家庭においても、積極的にICTを用いて学習を進めることができるように、保護者と学校との連携を図る。 ・家庭学習を通じて日々の予習・復習に取り組めることができるように、各教科で10分程度で取り組める課題を毎回出したり、その課題への取り組み方法などについて紹介したりして、家庭学習の重要性に気づく機会を設ける。また、授業の内容をノートで整理し、ICT機器に頼りすぎない学習方法を身に付けることができるよう指導する。

(3)質問紙調査結果より(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています。)



(4)学力・学習状況調査結果チャート(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・9年間の学びの連続性を意識できるような職員研修を行い、学園生の理解・教科の特性の理解を今後も深めていく。
 ・記述問題克服のために、まずは多様な文章表現に触れられるように、学校図書館の活用を推進していくとともに、教職員に対しても読書の重要性を呼びかけ、学園全体で読書活動を推進していく。
 ・前期課程・後期課程を交えた教科部会を実施し、各教科における課題やその克服方法について考え、9年間を見通した学習計画を立案する。
 ・短作文やスピーチ原稿などを定期的に書かせることで、学園生が自分の考えを文章化することに慣れていくことができるようにする。

【受検者数】

35 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示。

